

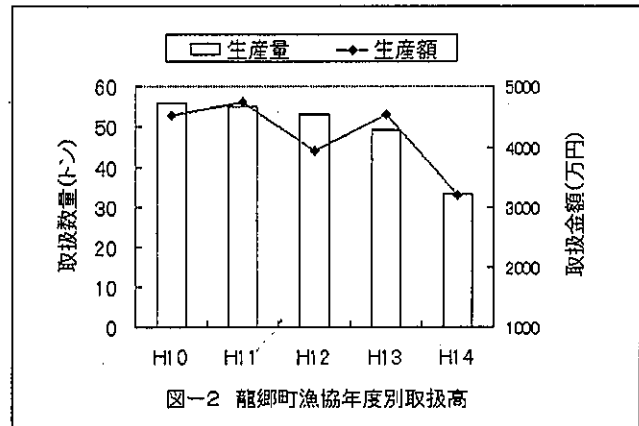
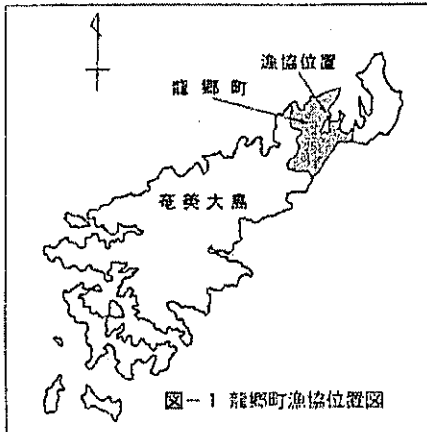
うみんちゅ 海人の島おこし

龍郷町漁業協同組合青年部長 辺木 幹男

1 地域と漁協の概要

私が住む龍郷町は、奄美大島の北部に位置し、山間部を中心とした面積 82 km²、人口約 6,000 人の小さな町です。私が所属する龍郷町漁協は昭和 29 年 4 月に設立され、平成 15 年 5 月現在では正組合員 88 名、准組合員 258 名の合計 346 名で構成されています。漁船隻数は 246 隻（5 トン以上 3 隻、5 トン未満 243 隻）あり、漁業は瀬物一本釣・刺網・敷網等の漁船漁業のほかに、モズク養殖やクルマエビ養殖があります。

龍郷町漁協では市場を開設してませんので、漁獲物のほとんどは名瀬漁協の市場に出荷しています。漁獲物はホタ等の瀬物類やアジ類、イカ類が中心で、平成 14 年の取扱高は 33.4 トン、3,200 万円でした。ここ数年の水揚量は 50 トン前後で推移していましたが、平成 14 年は相次ぐ台風の影響で水揚げ量が減少し、例年を下回りました。



2 就業の動機と複合経営

私は龍郷町に 5 人兄弟の次男として生まれました。父は瀬物一本釣の漁師で、私は父の姿を見て育ちました。小学生の時に父に連れられて漁に行き、自分が釣ったイソマグロが売れてお金をもらったことがたいへん嬉しく、その時の喜びが将来は漁師になろうと思った最初のきっかけでした。海に関係する技術を身につけたくて高校卒業後は山口県の国立商船高専に進学し、昭和 59 年に海上自衛隊に入隊し、しばらくは艦隊勤務でした。自衛隊時代は海と船に携わってとても充実した日々でした。その後、実家では島外に出ていた兄が平成元年に U ターンし、釣客案内を営んでいましたが、平成 3 年に父と共に「釣り客を対象とした民宿」を始めることになったので、私も帰ってき



て、釣客案内をして欲しいと2人から頼まれました。自衛隊での勤務は充実していたので悩みましたが、小さい頃の海に行った思い出や故郷の海を懐かしく思う気持ちもあって、平成3年に龍郷町に戻ってきました。

Uターンした当初は兄が経営する民宿「なべき屋」の釣客案内が主で、合間に父から瀬物一本釣の技術を習得しました。当時は父が持っていた4tの漁船で釣客を案内していましたが、年々客も増えてきたので、船を大型化することになり、平成7年に7.9トンの漁船「海友」を建造し、それと同時に漁師として一本立ちしました。この頃の就業状況は遊漁船業が7割、漁業は3割程度でしたが、長引く不景気により釣客案内の収入が減ってきたこともあり、平成11年には釣客案内を副業的にし、一本釣漁業で生計を立てていくを決心しました。現在の収入は一本釣漁業が7割、遊漁船業3割という状況になっています。

釣客案内は東京や大阪からの客を含めて年間で40～50人を案内していますが、そのほとんどを夏場に集中しています。一本釣漁業は夏場は他の漁船も出漁機会が多く水揚量も増え、魚価が下がるので、この時期はなるべく釣客案内に重点を置くようにし、私のスタイルである漁業と遊漁船経営を両立させる工夫をしています。夏場の釣客案内の時期は漁を控えることになり、瀬物資源への負担が軽減されると思っています。

3 一本釣漁業と資源管理

一本釣漁業は、年間通じてホタ等を対象とした瀬物一本釣が主体で、主な漁場は奄美大島北部のサンドン岩やアッタゾネなどの天然礁周辺です。長いときは1航海に約1週間の泊り込みで出漁しています。操業は1日に数カ所の曾根をまわり、漁獲は1日100kg程度を目標としています。1つの曾根で頑張れば100kg以上の水揚げが可能ですが、それぞれの曾根の資源は無限ではないわけですから、1箇所の曾根で無理して多くを漁獲せず、曾根から曾根へと移動して少しずつ漁獲するようにしています。このやり方だと1つの曾根の魚を釣りきってしまうことはなく、毎年同じ曾根を利用することができます。このことは、長く一本釣りの漁師として生きていくためには必要なことだと思います。

このような資源管理への取り組みは、私1人だけの力では到底できることではありません。操業区域や漁具の制限など、何らかの措置を漁協や、漁業者が一体となって取組まなければならない時期にきていると思います。国は水産基本計画で資源回復を重要な施策として掲げていますが、奄美ではホタやチビキなどのマチ類の資源回復計画に取り組むことになりました。

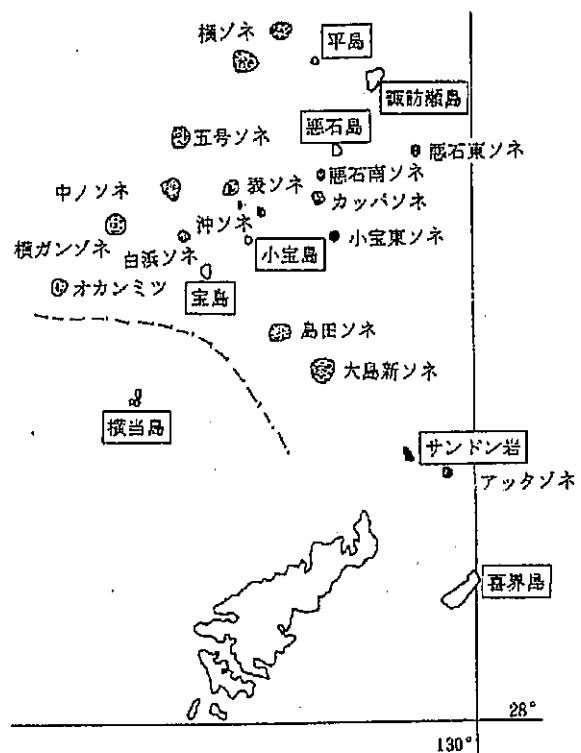


図-3 操業位置図

11 月には県内の一本釣漁業者を中心に「底魚一本釣漁業者協議会」が設置され、私もその一員として選ばれました。今後、資源回復のための具体的方策を検討していくこととなりますが、漁業者の生活を守りながらどうすれば資源の回復が図れるのか、漁業者みんなで考えていきたいと思っています。

年間の操業状況

| 月 主な魚種 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 備 考 |
|-----------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|-----|
| ホタチ | | | | | | | | | | | | | |
| チビキ | | | | | | | | | | | | | |
| マグロ | | | | | | | | | | | | | |
| カンパチ | | | | | | | | | | | | | |
| ミズイカ | | | | | | | | | | | | | |
| 釣客案内 | | | | | | | | | | | | | |

4 魚食普及への取り組み

私は、これからの漁業はただ釣るだけでなく、流通の改善や加工などにより付加価値を付け、魚価を自分の手で上げていく必要があると思います。その1つとして、「なべき屋」では奄美ではさほど高級魚ではないイソマグロやアオチビキなどを使って棒寿司を作っています。さねんの葉で包んだもので、1本 500 円で販売しています。最近では宅配便を始め、また奄美空港やみやげ店にも自分の顔写真入りで置いてもらい、売れ行きも上々です。

また「なべき屋」では客が釣った魚を食事に出し、新鮮なうちに食べてもらっています。飛行機で東京や大阪に帰る客には新鮮なうちにブロックやフィレにして持たせて、夜の食卓で食べられるようにするなど奄美の魚のおいしさを伝えるよう努めています。



写真2 棒寿司

また、奄美で獲れる新鮮な魚介類を少しでも安く消費者にPRしようとの思いから、奄美群島水産青年協議会では毎年4月に「お魚まつり」を開催しています。各漁協の青年部がイセエビやホタチ、ミズイカ、カツオ、マグロ、タカセガイなどの新鮮な魚介類を持ち寄り、即売やイセエビ汁、イカスミ汁の販売をしています。このイベントを楽しみにしている消費者も多く、年々来場者も増えており、地域に定着したイベントとなっています。おかげで平成16年には10回目を迎えるに至りました。今後もこのような活動を通じて奄美群島の魚食文化のPRを図っていききたいと思います。

5 奄美群島水産青年協議会の活動

先にふれた奄美群島水産青年協議会は、群島内の各漁協の青年部や若手漁業者で組織され、交流会や勉強会、各種活動を通じて奄美の水産業を発展させようとの趣旨から平成6年2月に発足した協議会です。協議会では「お魚まつり」の開催や藻場造成活動、オニヒトデの駆除や植樹活動などを展開しており、私も協議会の役員として各種活動に積極的に参加しています。

協議会では奄美の豊かな海を取り戻すためには藻場の再生が必要不可欠との考えから藻場造成を重点課題と位置づけて、発足当時から藻場造成活動に取り組んでいます。

平成13年度は笠利町佐仁地先や瀬戸内町白浜、平成14年度は宇検村宇検地先で山石数百個を投入しています。徐々に成果が現れ始めてきて、笠利町や宇検村では少しずつですがホンダワラの藻場が広がりつつあります。平成15年9月には水産試験場の協力を得て、笠利町佐仁に生育したホンダワラの母藻を刈り取り、目の粗いネットに入れて龍郷町安木屋場の昔藻場があった場所に投入しました。今年の夏には藻場が再生することを願って水産試験場や大島支庁と協力して追跡調査をしていきたいと思っています。藻場は魚介類の産卵場であったり、稚魚の成育の場でもありますので、今後とも藻場造成に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



写真3 「お魚まつり」



写真4 藻場造成活動

6 今後の目標

私がUターンして漁業に着業して10年以上になりますが、奄美の水産物を島内だけで消費するのはどうしても限界があると感じています。島の水産業が発展するには新鮮な魚介類をもっと島外にPRすることや、遊漁船も本土から客を呼び、島でお金を使ってもらうことにより島外からの外貨を得ることで島全体の潤いにつながると 생각합니다。

来島する釣客は釣りたての魚を「なべき屋」で食べられますが、大都市圏の人でも新鮮な魚が新鮮なうちに食べられるような流通ができないか考えています。また、今はまだ「なべき屋」のホームページ (<http://www.minc.ne.jp/nabekiya>) で、釣客案内や宿泊、棒寿司などの案内をしている程度ですが、将来は顔の見える販売を展開し、漁業者と消費者が信頼のおける関係にまで発展して、自分の釣った魚を「海友の辺木さんが釣った魚」として食べてもらうことが私の夢です。

一本釣漁業と遊漁船業の複合経営は決して楽ではありませんが、努力すればその分儲

けもあり魅力ある仕事だと思います。これからも島の発展を目指し、一人の海人として今の仕事を続けていきたいと思っています。

(参考資料)

平成15年 奄美群島水産青年協議会活動実績

| 月 日 | 活 動 内 容 | 場 所 |
|---------------------------------|--|----------------------|
| 1. 17 1. 24 | 県漁業振興大会参加 奄美地区翔び魚塾運営委員会 | 鹿児島市 名瀬市 |
| 2. 5 2. 15 2. 28 | 奄美群島植樹祭参加 県漁青連第1回役員会 奄美地区翔び魚塾植樹活動及び現地研修会 | 宇検村 鹿児島市 宇検村 |
| 3. 13 3. 21 3. 25 | 県漁青連通常総会 藻場造成事業 山石投入作業 14年度第5回役員会 | 鹿児島市 宇検村 名瀬市 |
| 4. 12 4. 26 4. 27 | 15年度第1回役員会 第9回「お魚まつり」準備 第9回「新鮮なお魚まつり」、通常総会 及びオニヒトデ駆除講習会 | 名瀬市 " " |
| 5. 20 | 県漁青連第2回役員会 | 鹿児島市 |
| 6. 7 6. 18 6. 18 6. 29 | 15年度第2回役員会 奄美地区翔び魚塾総会 奄美群島水産振興協議会総会 奄水青協第10回親睦スポーツ大会 | 名瀬市 " " 笠利町 |
| 7. 5 7. 5 | オニヒトデ駆除活動 県大島支庁長と語る会 | 大和村 " |
| 9. 19 | 藻場造成活動 | 龍郷町 |
| 10. 10 | 15年度第3回役員会 | 名瀬市 |
| 12. 4 | 15年度第4回役員会 | 名瀬市 |